

日刊 磐城時報

編輯部 磐城石城郡平町新屋町高
印刷部 磐城石城郡平町新屋町高
發行部 磐城石城郡平町新屋町高
電話 磐城石城郡平町新屋町高
A日刊(日曜、祭日休刊)

戰慄すべし 教員赤化事件

常磐共産黨の全貌

檢舉總數九十六名中五名起訴

本日記事解禁

平警察署特高主任川島警部補が、去五月九日午後八時頃某方面から秘報により、當時入山炭礦後山夫新潟縣長岡市表町生れ山田文夫(二五)を檢舉嚴重取調した結果、共産黨系全協日本炭礦労働者組合の最高指令にもとづき、外炭名に尖鋭分子と共に本郡炭礦界に侵入し、入山、古河三大炭礦にフランクシヨンを設けて、炭界の赤化を企て、更に平町第三小學校訓導林又左衛門(三〇)同校女教員渡邊タイ(二三)好間村第一小學校女教員吉田ツダ(二四)の三教員外数名が「史的唯物論」の研究會を催し、同人文藝雜誌『垣塙』を秘かに發行し、山林内其の他桑畑等で前後十數回會合して其の作品批判會を催した際、裡面に在つて此等インテリ層を巧妙にリードして全郡下教員の赤化を企圖してゐた驚異すべき重大事實を白日した。この驚愕した平署當局は直ちに縣特高課に急報折柄、課長は上京不在中であつたが、佐久間次席警部以下急送來援し、新聞記事其の他一切の報導を禁じて同日深夜から翌十日にかけて全郡下に亘り關係者の一大檢舉を開始し、

に着手常磐炭礦労働者組合を秘れより先昨年頃から内郷村地家に荷物を運込んだのを突き止、團に真相發表の爲め來署した堀かに組織日礦本部からリダグ内に居住する炭礦失業労働者がめがけた尾行のあるを氣付いた小川治雄(二九)以下本郡四政府米廉價物下交附要求、ボクたか川島警部補の一隊が翌二十倉町出身の佐藤ヒロ(二六)以下炭拾ひ容認運動等活潑の働を見、日早朝まで張込み警戒中の非常数名の尖鋭分子は其の筋の嚴重せ始めたのに不意を喰ひた平署を突破して何處へか荷物は巧なる警戒網を破つて潜入先づ常では何者かの巧みなカモフラジに雲隠れして仕舞つたので、唯警界の一大ゼネストを企圖した闘争戦術の現れと見て各一の手掛を失して呆然自失したて各炭礦フランクシヨンを(細胞)炭礦と共其の真相を探究すべし、搜查本部は直ちに好間村方面を組織すべく本部特派の尖鋭分子の内偵の歩を進めてゐた處、今春風浪に検査されたが、荷物の行衛子五名は磐城炭礦、高坂、町三月中旬頃常磐炭界の大ゼネストは遂に発見され、新たな検査所に分擔區域を定め最高リダグで極度に緊張し、縣特高課の指揮つた、重大な此の失敗に奮起し、として警城へ星野は坑夫としを仰いで注意人物として警戒中た川島警部補は一人城山方面をて入山に潜入坑内の赤化計謀の出入坑夫山田文夫(二五)が五戸別に捜査飽まで失敗の汚名を進め、佐藤ヒロは内郷村宮城代月九日午後六時頃四坑坑内不雪ぐぐぐ不眠不休の活動を続け、にアデトを置き裁縫機を開いて、秘文書と共に數枚の礦山労働新の同方部受持ちの高松巡査から城主女性に働きかけ、炭礦労働者の開を配布した事實のあるのを同時頃城山泉樂園で偶然行合つた女事務員平町四丁目加藤シモ(社)入山人事課長小山田滋氏が探山二十一番地に水戸製水會社を(二四)同社タイピスト湯本町水知平署に密報山田を檢舉し得た、山二十一番地に水戸製水會社を野タキヨ(二〇)以下緩坑掘炭婦のもので、その取調により前述、誠首されたと稱する若婦夫が數志賀ヨシ(二二)等合計二十四名真相が判明した結果勇躍した平の女性同志を獲得したもので、此署の一大檢舉となつた。

巨魁兩名の檢舉

彫骨の苦心を續けて

城山のアデト襲撃

(別項) 山田事野野篤の檢舉自水國實阿彌陀堂附近の農家にア白より時を移さず一大檢舉をデトを移した事實を突止めたの開始したが、堀部特高課長、佐で十九日午前五時を期し佐久間久間次席警部、平署川島特高主任警部總指揮の警隊は件のアデトに非常線を探り、早朝警知つた小川、佐藤兩名は風を噴炭高坂坑のオルグ常磐炭礦者達つて脱走し前記アデトは模倣け動のリーダー、双葉郡新山町石熊のからとつてゐたので、地獄四四市村政美(二三)同失業會常踏んで口惜がつたがアデトの大務責任者本郡磐崎村藤原生れ大家山崎吉松の口から「今日あつた井川基司(二六)の兩名以下外廓りは荷物を引取に來る筈だ」とアデトたる第三小學校訓導林の有力な開込みを得たので、數名又左衛門(三〇)外八十餘名を檢の張込みを成して本署に引上げ、巨魁本部特派の小川治雄(二二)中を一人の老婆が八夫を伴つて九)佐藤ヒロ(二六)兩名の所在、荷物を引取り平町方面に向つたは突止め得ず八方検査に全力を以て張込中の警官數名は其の屈注いた結果茶賣行商の奇怪な行先を見届けるべく尾行を續け、件動から前記兩名巨魁は内郷村白の老婆が平町古銀治町鼠坂下某で、記事解禁に先立ち在平記者らしてゐる。

首腦部五名

起訴された

搜查本部の悪戦苦闘により巨魁川島特高主任が先づ其の在否を、千葉縣山武郡千代田村生れ全協確め折柄新聞を讀んでゐた男女兩名が巨魁小川、佐藤の兩名で指導者兼好間、古河炭礦フランクシヨンをオルグ小川治雄(二九)手をサツト揚げるや待ち兼ねた同新郷縣長岡市表町一町目三四警官隊が雪崩れを打つて襲撃、一生れ全協日礦常磐炭礦組合入も逃走せんと抵抗する巨魁二名山フランクシヨンをオルグ山田文夫を折重つて逮捕凱歌を奏して引事野野篤(二五)双葉郡新山町石熊四四生れ高坂フランクシヨンをオルグ市村政美(二三)磐崎村藤原一常炭失業組合責任者大井川基司(二六)同郡四倉町新町生れ町田フランクシヨンをオルグ常磐の天地を震撼せしめた教員兼婦人部長佐藤ヒロ(二六)の五赤化の共産黨事件が其の全貌を暴露するまでの當局の苦心は非常なるもので、去五月九日山田文夫事入山細胞のオルグ新郷縣生重取調を受けたが容易に自白せれ星野篤(二五)檢舉以來滿六ヶ月、百六十八日の長日数を要し或る條件を附して漸く口を開いて正式起訴を見るに至つたもの程度の頑強さで當局を手古摺

各炭礦に細胞組織

戰慄すべし 赤魔の計畫

戰慄すべし其全貌を曝露するに動は表面から其の姿を消してゐる。至つた共産黨事件の發生から今たが事實は非法の地下運動が熾烈となり殊に本郡出身の極左組織となつた大野村生れ吉田寛(九)佐藤ヒロ(二六)兩名の所在、荷物を引取り平町方面に向つたは突止め得ず八方検査に全力を以て張込中の警官數名は其の屈注いた結果茶賣行商の奇怪な行先を見届けるべく尾行を續け、件動から前記兩名巨魁は内郷村白の老婆が平町古銀治町鼠坂下某で、記事解禁に先立ち在平記者らしてゐる。

怪老婆は山城の實母

山城の實母

白水のアデトから荷物を運去つた怪老婆は搜查の結果常磐地方極左労働運動の先驅者で四一六事件の巨魁として知られる山代吉宗の實母、當時湯本町居住の松永タニ(二六)である事判明したので直ちに檢舉取調したが巨魁小川、安藤ヒロ兩名の檢舉され、二十五日まで遂に一言も發せずその頑強さには佐久間警部も手古摺つたもの……

赤い女性二十四名

女教員二名、女事務員二名 其の他は磐炭撰炭婦

平署検挙の事件関係者は總數九人、同社タイピスト水野タキヨ十六名地方空前の多數に達して(二〇)さん等インテリ女性の外、この赤線に躍つた人々合計二十四名の女性があり、大の中には別項平第三小學校女訓導は婦人オオルグの佐藤ヒロ(二)導渡邊タイ子(二四)んさ、好問(六)の影響下にあつて佐藤の裁村第一小學校女訓導吉田サダ子(二四)んさ、好問(六)の影響下にあつて赤い思想を吹き込(二)さん、磐城炭礦業所會まれた磐炭撰炭婦で割合に深計課女事務員加藤シモ(二四)さん入りしなかつた。

女闘士佐藤ヒロ(二)

四倉町柳湯の娘さん 磐女卒業後女大に入學赤化

赤い闘士として遂に正式起訴された結果別項二十四名の女闘士唯一の女性佐藤ヒロ(二)性を獲得した。實家には父福松さんは本郡四倉町新町生れ實家が病床にあり最愛のヒロ子さんは柳の湯佐藤福松の四女で七人検挙の事知らず「何處に居兄弟、四倉小學校を出て大正十のせう……」と案じて居る四年磐女校を優等で卒業上京し、長姉ミヨ子さんは、同年日本女大に入學したが此頃から左翼運動に入り昭和三年七月卒業を前にして放校されたが、翌四年助川町日立製作所の女事務員となり翌五年八月から共産系全協日金支部の組織に着手したが同志小川治雄と知り及んで常磐炭界の赤化を計測し巧みに警戒網を突破して内郷村に潜入主に未組織女性の獲得に努力婦人オオルグとして地下運動と泣き崩れてゐた。

三訓導は轉向

二女教員は自宅で謹慎

未曾有の大不祥事を惹起した常たが其の後各れも轉向を契ひ謹磐炭界共産黨事件に外郷グル一慎して居り林は神戸市某會社にプとして躍つた平町第三小學校社員として入社、二女教員は各教員林又左衛門(三〇)同校女教員も自宅に在つて家事の手傳ひ員渡邊タイ(二四)好問第一小學校を續け去きし悪夢を忘れ様と努校教員吉田サダ(二二)三名はめてゐるが取調に當つた川島特事件發覺同時に退職せしめられ高主任も可哀相な人達として將

星野篤経歴

戸籍を偽造 入山に住込む

事件發覺の導火線となつた入山炭礦坑夫山田文夫(二五)事星野篤は新潟縣長岡市表町三四一生活父は同市収入役で兄弟は各れも相當の地位にある、昭和四年長岡高工應用化學科を卒業同縣新津製作所技師見習に就職五年二月仙臺工兵第二大隊に幹部候補生として入隊軍曹に昇進して同年十一月除隊後上京極左理論の大家猪俣津南雄氏宅に寄宿マルクス主義の研究に努め六年四月九州福岡炭礦に潜入して實際運動に入り地下運動を續け今春三月日礦本部の指令に依つて郡下に潜入巧みに戸籍謄本を偽造して山田文夫になり済し入山炭礦坑夫に住み込んで坑内赤化に着手したのを小山田課長に見破られたもの

出身の市村

唯一の労働者

市村政美(二三)は双葉郡新山村石熊四四生れ郷里小學校を卒業する間もなく磐城炭礦の難夫となり後秋原炭礦を経て小田炭礦坑夫となり昨年三月常炭に加盟したが五月十日檢舉された當時は高坂フラスコシヨンのオルグとなつてゐた事を知らず年の若さと學歴のない點で大いしたものと思はず釋放されたので植田、仙臺、福高等を逃げ廻り後で市村の重要さを發見した當局が血眼の追逐を尻目に浪江町に潜伏してゐたのを去月十五日再檢舉されたもので純粹の労働者出身だけに最もガツチリした闘士の一である

大井川基司

警中出の

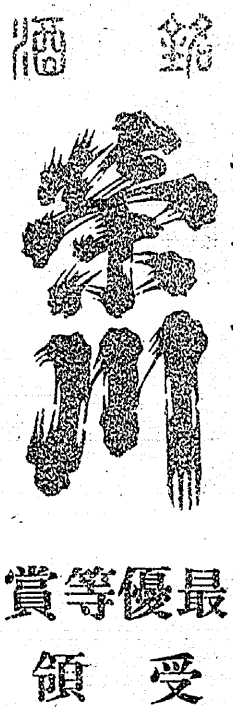
大井川基司(二六)は磐崎村藤原身長二尺五寸柔道二段の猛者で出身郷里藤原を経て大正十五其の檢舉には檢舉には當局も非年終卒業昭和二年第三高校入常に苦心したが川島主任の奇智學同五年二月同校社會科學研究により城山のアデトに女闘士佐會行動隊に参加檢束されたので藤ヒロと潜伏新聞閣中であつ中途退學せられ同年五月來歸郡た爲め大警官廳の襲撃にもろくして常磐炭礦労働者組合の再建も逮捕されたが本籍は千葉縣山に努力日礦本部員を命せられて武郡千代田村山田一六七五千葉から市村と知り小川の來山まで中を経て昭和二年三月水戸高校を卒業同年四月東京帝大經濟學部に入學した秀才で三年五月の東大事件で警視廳に警報され第一審で懲役三年を言渡され控訴中昨年三月十四日釋放出所十一月初旬日礦本部の指令により常磐炭礦赤化を計畫して内郷村に潜入最高オルグとして活躍した

産名島松

美味と滋養で名高い一の井の
カキ貝 御料理
獨カキフライ……廿五錢
特カキナベ……四十錢
カキ……廿五錢
電一六七番

首魁小川

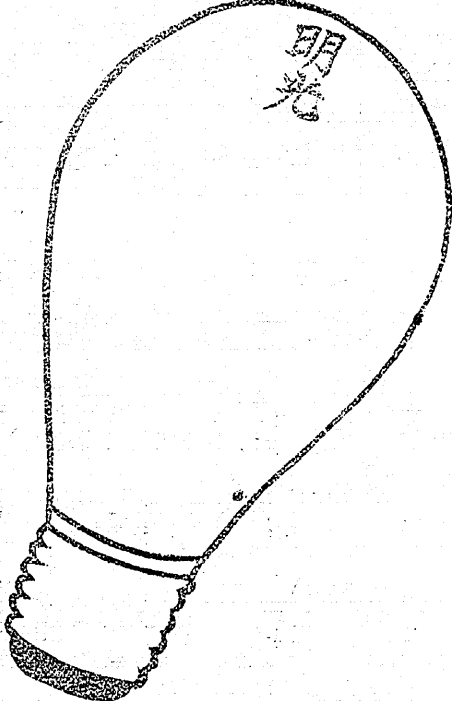
柔道一段の猛者
水戸高校から帝大へ
今事件の首魁小川治雄(二九)は潜入最高オルグとして活躍した



於福島縣下第九回清酒品評會
賞等優最 領受

平町川町
永山酒店
電話二〇七番

ガス入電球、値下ゲ



十燭以下十二錢……五十燭マデ十八錢
(御電話ガアレバ届ケマス)

大谷時計病院
眼鏡科
電話十九番

蒲鉾製造開始

氷水賣出中は特別の御引立に預り有難く御禮申上ます
本日より例年の通り蒲鉾製造を開始しまし
たから倍舊の御引立を願ひ上げます

折詰仕出し

御惣菜用さつま揚、吉原揚
平町二丁目
藤市蒲鉾店
電話三〇五番

平看護婦會
會長 清野キヨ
平町宇南町 電話三〇七番

看護婦派出の需めに應じます